

緑のしるべ

～夏号～

令和4年7月

茨城県県南農林事務所
稲敷地域農業改良普及センター

稲敷市江戸崎甲541

TEL 029(892)2934

FAX 029(892)6684

mail inanofu@pref.ibaraki.lg.jp

茨城モデル水稲メガファーム育成事業で100ha超達成



茨城県では、「儲かる農業」の実現に向けて、大規模経営による収益性の高い水稲農業モデル経営体の育成のため、「茨城モデル水稲メガファーム育成事業」に取り組んできました。同事業では、短期間で100ha超の大規模水稲経営体に育成するため公募により選定した地区の農業法人等に対し、農地中間管理事業を活用した農地の集積・集約化およびICT等先端技術の導入等の支援を行ってきました。

当普及センター管内では、稲敷市のYAMAGUCHI farm 株式会社に続き、河内町金江津の株式会社Kファーム NAITO が令和3年11月に101haの集積を達成しました。事業開始当初の経営規模49haから3年間での規模拡大だったため、代表取締役の内藤貴通さんは経営規模に適した栽培計画の策定・実践や、農地耕作条件改善事業を活用した区画拡大などによる作業の効率化を進めました。また、農林水産省の「スマート農業実証プロジェクト」や「次世代につなぐ営農体系確立支援事業」に参画し、自動運転田植機、ロボットトラクタや農業用ドローンの活用などの実証実験に取り組むなど、新たな技術導入による省力化にも取り組んでいます。

普及センターでは、大規模水稲経営体の育成を関係機関と連携して引き続き支援していきます。

JA 水郷つくば 大根生産部会青年部の設立



大根生産部会青年部集合写真



販促イベントの様子

令和4年2月1日、部員数10名でJA水郷つくば大根生産部会青年部が発足しました。大根生産部会（部会員数34名）は牛久市を中心にブランド農産物である「うしく河童大根」を生産しており、青年部は新規就農者を含めた20～40代の若手生産者で構成されています。

青年部では、直売販促活動やSNSを利用した産地PR活動を通し、「うしく河童大根」の知名度向上によるブランド力・販売力強化を行っています。また、品種比較試験や資材試験などを積極的に行い、品質向上にも努めています。すでにスーパーで販促イベントを3回行っており、秋冬ダイコンでも販促イベントを予定しています。青年部部長を務める就農3年目の川崎将（ひとし）さんは、抱負として「青年部の活動を通して、「うしく河童大根」をもっとPRしていきたい。付加価値を高めるように頑張っていきたい。」と話していました。

活動状況は、Instagramに投稿されており、アプリで「うしく河童大根」でユーザー検索すると確認できます。

JA 稲敷 江戸崎南瓜部会での獣害対策

JA 稲敷江戸崎南瓜部会では、近年、イノシシによるカボチャの食害が問題となっています。そこで、普及センターでは、令和3年4～7月にカボチャ圃場にセンサーカメラを設置し、イノシシのモニタリング調査を行いました。モニタリング調査の結果、4～6月は夜間に集中的に出没し、7月には日中にも出没が確認されました。また、防獣ネットを設置した圃場ではネットを押し倒したり、穴を掘ってネット下からの侵入が確認されたのに対し、電気柵やワイヤーメッシュ柵を設置した圃場では、イノシシの侵入を防ぐことができました。

イノシシ対策としては、電気柵やワイヤーメッシュ柵等を圃場周囲に設置し、侵入させないことが重要です。また、被害が確認されていない圃場でも、イノシシのエサとなる廃果を放置しないことや、イノシシの住処となる耕作放棄地を草刈りする等、地域が一丸となって対策することが大切になります。



防獣ネットを押し倒して侵入するイノシシ



イノシシに食害されたカボチャ



電気柵

江戸崎総合高校生徒のインターンシップを受け入れ

稲敷地域就農支援協議会では、稲敷地域での就農を促進するため、昨年度より江戸崎総合高校生徒のインターンシップ受け入れを行っています。今年も2名の農業経営士に協力していただき、生徒3名を受け入れました。2件とも田植え作業（主に苗運び作業や圃場整備等）を行いました。いずれの生徒も経営士の指示に従い、熱心に取り組んでいました。経営士からは「口数は少ないが、真面目に頑張ってくれている。」と評価は高く、生徒からも「農業が楽しいと思えるようになった。県立農大等に進学して、雇用就農を目指したい。」という声が聞かれました。

今後も稲敷地域就農支援協議会では、江戸崎総合高校と連携し、インターンシップ制度を支援していく予定です。



ドローンを活用した農作業のご案内



水稲でのドローン防除
現地検討会の様子

近年のICTの発展により、農業用ドローン（以下ドローン）の普及が拡大しており、農作業への活用も活発になっています。特に水稲では多くの殺虫剤が「無人航空機による散布」で登録され、殺菌剤についても登録が増えています。また、最大積載量が大きな新機種が発売されるなど、今後も用途・利便性の向上が見込まれています。

稲敷地域大規模水田経営協議会では、近年、水稲で被害が拡大している斑点米カメムシ類について、ドローンでの薬剤散布による防除効果と経営への影響を検討しました。多収品種「オオナリ」を用いて防除の有無を比較したところ、収量は48kg/10a、所得は3,216円/10aの増加が見込まれました（飼料用米とした場合）。試験結果は資料での配布が可能ですので、ご希望の場合は普及センターまでご連絡ください。

普及センターでは水稲の他に、れんこんについてもドローンでの追肥や、薬剤散布による省力効果の検討を行っています。

霞ヶ浦環境負荷低減事業の取り組み実績

県内のれんこん産地は霞ヶ浦周辺に分布しているため、れんこん田から流出する肥料成分が湖沼の水質に影響を及ぼすことが懸念されています。

そこで県では、本事業において、れんこんの養分吸収量に応じた効率的施肥技術の開発に取り組みました。県内20カ所に試験圃を設置し、同一圃場で減肥栽培を継続して実施した結果、土壌中に残る窒素（残存窒素）量を考慮すれば、施肥窒素量を削減しても、収量を維持することが可能であることが明らかとなりました。

残存窒素量を考慮した診断施肥技術

①土壌中の「アンモニア態窒素」、②「石灰窒素肥成分」、③「施肥窒素」の合計が36kg/10aとなるように施肥することで、慣行区と同等の収量を得ることができます。

現地試験事例

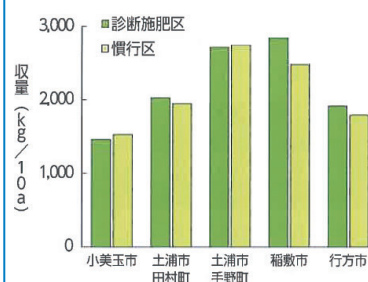
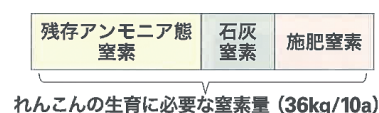


図 診断施肥区と慣行区の収量



農業学園に参加してみませんか？

普及センターでは、農業を始めて間もない方等を対象に、農業経営における課題解決活動を支援するための農業学園を開催しています。

スキルアップのための講座のほか、同年代の農業者と情報交換・交流できる貴重な機会にもなりますので、ぜひご参加ください。

月	内 容 (予定)
8	・農機メーカー見学会
9	・先進農家研修 (露地野菜) ～先輩農家はどのようにやっている？～
10	・農業簿記講座 ～青色申告のための複式簿記～
11	・土づくり講座 ～土壌診断をやってみよう～
2	・病害虫・農業安全使用講座 ・1年間の農業経営を振り返る

【お問合せ先】

稲敷地域農業改良普及センター (担当：鶴見)
電話：029-892-2934 FAX：029-892-6684

農業大学の学生を募集しています

県立農業大学校では令和5年度入学生を募集しています。定員は農業部：農学科40名、畜産学科10名、園芸部：園芸学科30名です。

また、研究科は10名を募集します。

出願資格やオープンキャンパスについて、詳しくはホームページをご確認ください。また、ブログでは農大の日常がご覧いただけます。

◆入学願書の受付期間

◎推薦入試

令和4年10月3日(月)～10月21日(金)

◎一般入試 前期・研究科

令和4年11月14日(月)～12月9日(金)

◎一般入試 後期

令和5年1月30日(月)～2月22日(水)

ホームページ



ブログ



【お問合せ先】

県立農業大学校
電話：029-292-0010 FAX：029-292-0903

いばらき農業アカデミーのお知らせ

茨城県では、農業技術や経営力向上を目指す方や、農業を志している方など、幅広い方を対象に「いばらき農業アカデミー」を開講しています。経営管理や生産・加工技術、先進技術など、目的に応じて自由に選択・受講することができます。

講座は順次開講しています。開講時期や内容、申込方法の詳細はホームページ、またはFacebookをご確認ください。



ホームページ



Facebook



【お問合せ先】

いばらき農業アカデミー事務局
電話：0299-45-8321 FAX：0299-45-8350